

新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 これまでの検討の経過について（案）

令和元年9月6日付で設置された「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」は、9月25日に第一回会議を開催した後、これまで3回の会議を開催し、検討を行ってきた。これまでに検討を行った内容は以下2. のとおり。今後も、これらの論点を含め、3. に掲げる論点等について、引き続き検討を進める予定。

1. 開催状況

(1) 第1回：令和元年9月25日（水）10：00～12：30

・新しい時代の特別支援教育の在り方について自由討議

(2) 第2回：同 10月16日（水）15：30～18：15

・特別支援教育を担う教員の専門性の整理と養成の在り方についてヒアリング及び意見交換

(3) 第3回：同 11月8日（金）15：00～18：00

・障害のある子供たちへの指導におけるICTの活用についてヒアリング及び意見交換

2. これまでの議論で出た主な意見を踏まえた整理すべき論点

(1) 特別支援教育を担う教員の専門性の整理と養成の在り方について

- 特別支援教育に携わる教員に共通して求められる基盤的な資質や必要な専門性等についてどのように整理すべきか。その際、教員養成段階における特別支援教育概論の指導状況などについて現状の把握が必要ではないか。
- 発達障害など多様化する児童生徒の特性に応じた指導や、障害のある子供とない子供が共に学ぶ場の進展などの観点を踏まえ、特別支援学級や通級による指導を担う教員の専門性を担保するための方策についてのどのように考えていくべきか。
- 重複障害児への対応の観点から、複数の障害種を併せ有する場合の指導方法等に関する専門性をどのように確保していくべきか。
- 教員の専門性を担保するための方策として、例えば「履修証明」のような仕組みや免許等についてどのように考えるべきか。
- 専門性の担保に向けて、現職教員の研修の在り方や、小中学校等で特別支援教育を担当する教員のサポート体制の在り方、人事交流の仕組み、特別支援学校のセンター的機能等についてどのように考えていくべきか。

(2) 障害のある子供たちへの指導におけるICTの活用について

＜本日の議論を踏まえて作成＞

